

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(民事訴訟法)

---

次の各場合において、Xが提起した訴えは許されるか。

問(1) (配点: 15点)

Xが、Yに対する貸金返還請求訴訟において請求認容判決を得て、これが確定した後、改めて、Yを被告として、同一の貸金債権の返還請求の訴えを提起した場合。

問(2) (配点: 15点)

YがXに対して提起した売買代金債務不存在確認訴訟の係属中に、Xが、Yに対して同一の売買代金の支払請求の訴えを提起した場合。

問(3) (配点: 20点)

YがXに対して提起した請負代金支払請求訴訟において、Xが、Yに対して有する瑕疵修補に代わる損害賠償債権をもって相殺する旨の抗弁を提出するとともに、さらに、Yに対して、同一の損害賠償請求の訴えを提起した場合。